

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200841
法人名	株式会社アクタガワ
事業所名	アクタガワ ハートフルホーム有東坂
所在地	静岡県静岡市清水区有東坂一丁目224-45
自己評価作成日	令和 年 月 日
評価結果市町村受理日	令和2年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=2294200841-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階
訪問調査日	令和 2年 3月 18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は1階が小規模多機能型居宅介護、2階がグループホーム1ユニットの併設施設となっております。近くに公園もある為、お客様と職員で散歩に行くことができ、機能訓練を図りながら気分転換にも繋げる事が出来ます。2階のグループホームでは自宅に住んでいた時のような温かい雰囲気の中でお客様に過ごして頂けるよう努めております。一緒に居室・フロアの掃除や洗濯物干し等を行っており、それぞれのお客様が事業所内で役割を持つ事で、ご自身の存在感を実感して頂いております。また、事業所内だけでなく、外食・外出の機会を設ける事で頂くことで、閉塞感の打破を目指しております。地域の催し物にも参加し社会との関わりも大切にしながら地域密着型を目指し取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街の中にあり、静かで陽当りのよい明るい雰囲気のグループホームです。小規模多機能ホームと連携をとりながらボランティアの受け入れ等を行なっています。地域との交流では、お祭りに出かけたり、近所の保育園児の訪問も受け入れています。職員は法人の方針で研修やスキルアップの機会も多く、職員同士のコミュニケーションが盛んで情報共有もできています。それぞれの職員が目標を持って仕事をしています。利用者は車椅子の利用者が3人、男性が3名ですが、ゆったり落ちついた雰囲気です。今は利用者の状態や感染症予防で外出は自粛していますが、今後はイベントの企画を行い、楽しみを作る計画をしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	チーム会議にて職員で理念を唱和することで職員への浸透を図り、会議時にチーム間で確認を行っています。	法人の理念をチーム会議の前に全員で唱和することで気を引きしめて会議の始まりとしている。法人独自の理念もある。理念に基づいた個人目標があり、法人でチェック機能や研修で実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われているお祭りや催し物に足を運ばせて頂いています。地域の行事予定については、運営推進会議を通して教えて頂き、参加しています。	自治会に加入しており、敬老会で地区よりお祝いが届けられる。運営推進会議で情報をもらい、地域の祭りなどに参加している。保育園児との交流や中学生のボランティアの受け入れを行う。近所の住民とは親しく挨拶を交わす関係性が築けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ふれあい祭りを開催し、地域の方々をお招きしております。その際、介護に関する相談等を受け付けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第4金曜日に定期開催しております。その際様々なアドバイスを頂き、活用できるよう取り組んでおります。	偶数月の第4金曜日に定期開催している。参加者は自治会長、民生委員、地域包括支援センターの職員、家族、職員、議事録は職員や家族が閲覧できるように玄関にファイルを置いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括の方に運営推進会議に参加して頂き、その場を通じて事業所の取り組みについて伝えさせて頂いております。	地域包括支援センターの職員には運営推進会議で情報交換を行なっている。市職員の参加はなく連絡はFAXを利用している。行政との連絡は法人が行っていて、必要なことは法人から連絡がある。介護相談員を受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないよう職員には会議時に周知・徹底しております。居室の施錠についてはお客様の判断に委ねておりますが、鍵を掛けられることは現在はございません。	マニュアルや指針は整備されている。委員会は管理者と職員で3ヶ月に一度、会議を行なっている。月に一度のチーム会議の中で研修を行ない、マンツーマン会議でも指導されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者対応マニュアルの作成や虐待自己チェックの実施を3か月に1度行う事により、虐待防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通して成年後見制度について学んでおります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご契約時には重要事項説明書等の必要書類を用いてご説明・ご質問の時間を設けてさせて頂いております。その後、御理解・ご了承を頂き、書名・捺印をお願いしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	偶数月の運営推進会議や、お客様アンケートにてご意見を頂き、検討・反映に努めております。	年に一度、法人から家族へアンケートを送り、意見を伺っている。昨年は11月に実施しており、家族が遠方に住んでいる方や身寄りの少ない方にはそれぞれ対応している。家族会の代わりに月に一度お便りを手渡しや郵送で送っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	チーム会議時や毎日の業務の中で職員の意見・考えを確認しております。また、個別面談も行い意見を反映させています。	チーム会議は1時間半から2時間かけて意見を言いやすい環境を作っている。個人の年間目標を決め、それについての意見交換等、話しやすい人間関係づくりを管理者は心がけている。マンツーマン研修で本社の担当者と直接話せる機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度毎に目標管理シートを作成、半年毎に面談を行い個別に評価を行っています。また、目標設定をし、職員が向上心を持ってやりがいを感じながら働ける環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修プログラムに基づき、ステップ研修に取り組んでいます。また、社外研修やマナー研修にも積極的に参加し、培った経験を会議時などに参加できなかった職員に教え、情報共有を図っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加した際や事業所連絡会に参加し交流が図れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に事前に聞き取り調査・お試し利用をして頂き、お客様にご満足して頂けるよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前にご家族とお話しさせて頂き、悩み・要望・相談について伺っております。 また、お客様の事業所での様子等についての情報共有を図っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所にて提供できるサービス内容をしっかりと説明することで、お客様・ご家族の方の使いたいサービスを把握し情報を提供しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様が行える家事などを行って頂き、役割を持って過ごして頂いております。 また、お客様同士が交流できるようなレクリエーションを考え提供しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お客様の日々の様子や生活歴などを話し合って共有しております。 また、お客様の普段の写真などを用いてご家族とお客様がお話できるよう取り組んでおります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	主にご家族と連絡を取り合い、一緒に外出する機会を設けております。 また、お客様の好きな物、場所を把握し職員と外出する計画も練っております。	日頃から家族や友人の訪問がある。フラダンスや演劇等のボランティアの訪問もあり、楽しみにしている。外出計画は車椅子利用者や感染症予防の関係であまりできていないが4月のお花見の計画は何回かに分けて行う予定がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや家事などを通して、お客様同士に会話等の交流が図れるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	培った関係性を無駄にせず、相談事等ある際は親身になって対応させて頂いております、		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様一人ひとりと積極的コミュニケーションを取ることを大切に、お話を傾聴し支援に努めております。	それぞれの利用者の希望や意向は直接出てこなくなってきたが、寄り添いながらコミュニケーションを取ることを大切に個々の対応に努めている。個別対応表で職員が情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの聞き取りや個々の生活歴情報からサービスに繋げていける様努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別対応表や、介護記録入力、申し送りノートを活用し、現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月チーム会議を行い、カンファレンスの中で意見やアイデアを出しあい、介護計画に反映出来るよう努めております。	本人や家族の希望や状態に合わせ、主治医の意見を聞いている。職員は毎日サービスの内容を○×△で確認記入し、新しいケアマネージャーと共に毎月のチーム会議で3名程度のカンファレンスを行い計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を用い職員間で話し合い・情報共有をしながら実践、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助・訪問理美容の手配・イベントの参加取り組みをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出時に地域の方々と挨拶をし、また地域行事の参加を通じ支援を行えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	随時、主治医と連携を取れています。また、ご家族様の移行に合わせ状況に応じた通院介助も行っています。	協力医に直近の入居者以外が定期的に往診してもらっている。協力医は24時間365日対応してもらえる。かかりつけ医以外は家族対応でお願いしている。訪問看護師には週に1度全員が診てもらえる。歯科医は希望があれば訪問してもらえる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中の様子や変化などの情報をを訪問看護師に伝え、共有できています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の相談員の方と情報交換を行っています。その後の対応方法については主治医と相談し決めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と終末期のあり方について事前に話し合い、主治医・事業所・家族間で連携を図り支援に取り組んでいます。	契約時に本人や家族に説明し署名捺印してもらっている。状態変化に応じて医師、家族、職員と話し合い、医師や訪問看護師と連携をとっている。看取り経験のある職員もおり、エンゼルケアやターミナルケアの研修も行なっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	異常時・緊急時対応マニュアルを有し、チーム内研修を通して対応確認をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的に行っています。また、災害時には地域の方々に協力して頂けるようお願いさせてもらっています。	6月、11月の年に2回、地震、火災を想定した訓練を行なっている。その際、利用者を屋外に避難させている。発電機は常備している。連絡網はあるが実際には使ったことがない。地域住民との協力体制が不足している。	夜間想定、夏・冬想定、連絡訓練を実施して、課題をみつけてさらに防災対策を進めて下さい。また、発電機は全職員が動かせるように実際に訓練で使用し、更に地域連携も取れるように期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	チーム内研修時に接遇の実施や外部講師によるマナー研修に参加しています。	チーム内研修時にスキル研修も行い、その中の接遇研修では声かけの方法やスピーチロックについても話し合われている。法人間で品質向上指数を出し、見える化でわかり易く職員のスキルアップに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が希望を話せるように、職員がお話を傾聴することで、お客様の希望に沿った支援を行えるよう努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様のご希望に合わせて、散歩や小規模のレクリエーションに参加して頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	私物の衣類を使用して頂いております。また、着るものに関してはご本人に選んで頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様と料理をし、食事・片づけを行っています。	毎日の食事は食材が配送され、事業所内で職員が調理している。利用者に片付けの手伝いをしてもらうこともある。月に1度の行事食は希望を聞いてメニューから皆で決め、利用者を手伝ってもらいながら、おやつ作りも行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の身体状況に合わせ、食事量や水分量が確保できるように支援させて頂いております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行う事で、口腔内の清潔を保つことが図れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時、または排泄状況に合わせ、トイレ誘導を行い出来る限りトイレ内で排泄して頂けるよう努めています。	排泄表をつけ、日中はおむつ対応者は今はいない。全員がリハビリパンツを使用していて、トイレでの排泄を働きかけている。便秘は訪問看護師に相談して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取して頂けるよう働きかけ、また体操などによって適度に運動して頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声かけ、ご本人の希望に合わせて対応させて頂いております。	週3回入浴は午前、午後とも入居者の希望に対応している。お湯はかけ流しで、ゆずや入浴剤も利用している。ターミナルケアの利用者は医師と相談して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様の生活歴に合わせ居室空間・寝具に対応するよう努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表や内服薬の説明書を用いて、服薬時の薬の理解・支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに施設内での役割を持って過ごして頂いております。また、声掛けをしお客様の希望に合わせて散歩や、レクリエーションに参加して頂いております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	職員によるドライブや散歩、ご家族と連携しお客様の希望に沿えるような外出の機会を持つ事が出来るよう支援しております。	近くの公園に散歩の出かけたり、施設玄関前や広い2階ベランダでの日光浴で気分転換をしている。車のドライブの外出は状況を見て行う予定である。入居者からの外出希望はあまり聞かれない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は事務所でお預かりしている。外出時の買い物はお預かりした金額の中で、買物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様より了解が得られた際には対応させて頂いております。また、お客様からご家族様と連絡が取りたいという希望があった際は職員が取り次いでいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お客様にとって馴染みやすく、親しみやすい居住空間作りを心がけております。	掲示物は場所を決めて、季節感を大切にしている。玄関には季節の飾りや生花がいけられ、陽当りのよい施設内の共有空間には加湿器を利用して温度、湿度に気を使っている。汚物はその都度処理し、不快な臭いはない。食事中は集中してもらえるように音楽を流している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うお客様同士で会話ができるように職員の方で席順等を考えさせて頂き、対応しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内にはご本人の使い慣れた馴染みのある物を配置し、落ち着いて暮らせるように心掛けています。	ベッド、エアコン、クローゼットは施設で設置している。クローゼットは大きめで収納力があるので部屋は動線が確保されていて、すっきりしている。カーテンなどは持ち込んでもらい、他にも使い慣れた物を自由に家族にもちこんでもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂等の場所には色のついた印を付けて、お客様に分かりやすくし対応しております。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	夜間想定、夏・冬想定、連絡訓練を実施して、課題をみつけてさらに防災対策を進めて下さい。また、発電機は全職員が動かせるように実際に訓練で使用し、更に地域連携も取れるように期待します。	夜間想定 of 防災訓練の開催。 発電機の稼働訓練を行う。 地域の方にも防災訓練に参加して頂く。	年2回行う防災訓練で夜間想定を1回、発電機の稼働訓練を1回行い全職員が発電機の稼働が出来るようにする。 運営推進会議で発信し地域の方にも参加して頂けるよう声掛けを行う。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。